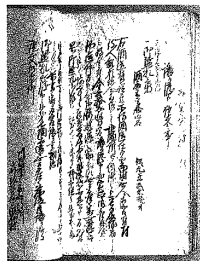


# 三右衛門日記(三)



一、真竹  
式万本位  
是者銘々居屋敷出生入用之時々伐取相用ひ、其餘種屋とも買受普請等之節者最奇ニ而直買遺捨候分

合竹  
三万三千五百八拾四本

一、當組合郡政而郡村々之内平地ニ而山林無之銘々居屋敷内真竹少々宛出生候而己ニ而元來竹全ク其村限用致來候處、拾ヶ年前申年頃か実生立枯ニ相成、四ヶ年前子頃も追々立直候得共、元より拂底之地ニ而地所充等仕候儀無之候

但立枯前年頃之直段四寸竹兩ニ三拾式本位ニ御座候處、當時者兩ニ八東位之高直段ニ御座候右者當組合宿村々ニ於いて去々卯去辰兩竹類売買いたし候欠損其外書面之通り相違無御座候 以上

川上金吾助支地所  
上州群馬郡下瀬村

## 待望の玉村町誌別巻VI 三右衛門日記(三)がここに発刊されました。

この度玉村町では「三右衛門日記(三)」を刊行いたしました。この日記は天保の改革に当たり玉村宿寄場組合大惣代を務めた渡辺三右衛門の「御用私用諸日記」を解説したものです。日記は天保十三年暮れの十二月から明治二年十月まで二十八年間二十九冊総丁数四七〇九丁、原稿に起こして一万四千枚の長編です。第三巻は、嘉永七年から安政五年までの六年分を取めました。

日記は、(一)と同様(二)に比べ内容が詳しく記述され、通読すると事件の経緯が詳細に分かり興味津々たるものがあります。なかでも火盗改めや関東取締出役連行の囚人の出生地、有宿・無宿の状況、囚人差立用駕籠の作成や囚人預かりの状況は毎年恒例の記載により無宿者増加の有様、背後の社会情勢が想像されます。

またこれも例年の事ですが、地頭旗本への先納があります。殊に安政二年五月には地頭大久保氏の支配村十一村から村方一同の外に主立衆が十七両、二十五両、三十五両を献金し惣ノ九百六十五両の上納を果たしています。旗本用人小安伴右衛門の活躍努力が著しい事がよくわかります。同時に村の主立衆の経済力もわかります。

同年六月末日の家数調べの覚は二十八頁に亘り濃百姓の如何に多いかを記しておりますが、富農層では伊香保・草津の温泉や、江戸見物に出掛ける記事が目立ち、暮末農村社会の貧富階層分化を如実に示しています。

安政五年八月末から九月にかけては、流行異病(コレラ)の流行とその防止法があり、関東取締出役による死失者調査が行われ、玉村称念寺過去帖にも同年二十四名、六年二十名、七年三十二名の死亡が記され、文政十三年以降の死亡者、年平均十一名の二倍以上の死亡者が目立ちます。殊に童子・童女の死亡が五年には九名もありました。

第四巻は、安政六年から文久二年までの予定ですので引き続き御愛読をお願いいたします。

玉村町誌刊行委員会

### 目次

口絵 安政二年五月十二日 地頭御用金上納督促状、安政三年八月二十日 酒造株譲渡証文、安政四年一月二十日 関東取締出役より御用にて竹売買調、安政四年閏五月七日 前橋藩下役三番所勤方覚

序 ..... 玉村町長 井田 金 七

#### 凡例

嘉永七年 ..... 安政四年 ..... 五八九

安政二年 ..... 安政五年 ..... 八三七

安政三年 ..... 四〇五 ..... あとがき ..... 一四〇一

#### 装丁

A5判  
上製本  
貼箱入り  
総頁.....約二〇〇頁  
口絵.....四頁

#### 第四巻

安政六年から文久二年まで、引き続き流行異病対策、烏川大洪水被害、水戸領騒がしく関東取締出役より地図を示されて道案内を差し出す一件、激増の悪人逮捕等々注目すべき事項多数  
平成十年十二月配本予定